

## アジア・太平洋研究センター主催講演会

日 時：2014年11月26日（水）

場 所：名古屋キャンパス R棟4階 R49教室

テーマ：台湾における大学教育の現状と課題

報告者：黄 瓊慧（台湾輔仁大学外語学院副教授）



### 一、高等教育の普及

台湾では、1949年に最初の国立大学「台湾大学」（前身は1928年創立の台北帝国大学）と三つの独立学院「工学院，農学院，師範学院」が発足した。その後、1955年にはミッション系の私立大学「東海大学」，1974年には最初の職業訓練系大学「国立台湾工業技術学院」が設置された。

80年代中期以降，民間からの大学教育への投資・参入が急増した（表）。戒厳令が廃止されて社会が自由化することにより，1994年に教育改革が推進，新大学法も制定されたが，関係者たちが詰め込み教育の苦勞を味わった世代であったことから，大学を増やし，進学のためのプレッシャーを軽減することに拘り過ぎる傾向が見られた。

また，職業学校もグレードアップしなければならないという考えから，大学に昇格するものが少なくなかった。その結果，高等教育は普及したが，大学の急増にも繋がった。

大学数と学生数の増加分析表

年度	大学数		学生数			
	公立	私立	博士課程学生	修士課程学生	学部生	合計
1976	13	12	363	4,138	140,857	145,358
1981	14	13	800	6,555	158,181	165,536
1986	15	13	2,143	11,294	184,729	198,166
1991	28	22	5,481	21,306	253,462	280,249
1996	37	30	9,365	35,508	337,837	382,710
2001	50	85	15,692	87,251	677,171	780,114
2006	52	95	29,839	163,585	966,591	1,160,015
2011	51	97	33,665	181,857	917,018	1,132,540
2013	50	97	31,475	177,305	1,035,534	1,244,314

一方、社会人に高等教育の機会を提供し、生涯学習社会を成立させるため、南部と北部にそれぞれ一つずつ通信教育大学が設立された。さらに、各大学では、生涯学習センターも設置され、単位が認められる授業と、認められない授業の両方が開かれるようになった。

## 二、現在の台湾の大学が抱える課題

今日では、台湾の大学が直面する大きな課題は以下の四点が挙げられる。

### （一）質と量のアンバランス

以上述べたように 80 年代の中期から大学が急増した。その中で、(1)私立大学の比重が急速に拡大、(2)学部 비해、大学院の増加比率が高い、(3)職業訓練系大学の比重も急速に拡大するといった現象が見られる。

若者は高等教育を受ける機会が増えているものの、大学評価のシステムが未熟なため、教育の質は少々低下している。例えば、次の通りである。(1)合格に必要な点数が低下し、合格する学生数が増加する、(2)学生と専任教師の人数の比率が上昇する。

ちなみに、大学評価システムが近年作られたが、各大学が設立時から職業訓練を目的とした大学、研究を中心とした大学や教育を中心とした大学などの機能の違いを、どのように区別していくのか、評価基準やその内容が問われざるを得ない。

### （二）大学教育資源の締め出し

台湾の政府は以前あまり重視しなかった幼児教育、小中学校教育、原住民教育、特殊教育に注意を払い、優先的に補助するようになった。そのため、大学教育の資源が

削減されている。各大学は、民間の寄付を学校へと働き掛けるなど、如何に校務基金を増やして人材を培うことに使用するかは急務の一つになった。

### (三) 国際化レベルの強化

近年、研究者及び学生は頻繁に海外に出かけ、各国の学者を招いて国際学術シンポジウムを行うなど学術交流をするが、台湾に滞在する外国人研究者の国籍の分布が一部の国に集中するほか、学術輸入の段階で留まっている分野が少なくなく、交流に必要とされる外国語能力が不足し、大学課程のコースデザインが外国人学生にとって必ずしも魅力的でないため、国際化を強化する必要があると大いにある。

### (四) 社会とのインタラクションの増加

大学の機能として、教育、研究の他に地域貢献機能が重要なことは明らかである。企業や政府部門との強力関係の模索も検討されるべきであろう。

## 三、まとめ

大学の発展は国富をもたらし、文化の高度化に寄与する。これは小さな国にとってはなおさらであると言われる。今、台湾の大学は、多元化、国際化及び高速化時代を迎え、新しいビジョンに向かって歩むなか、以上の課題をしっかりと受け止めて解決策を打ち出すことを迫られている。

(文責：宮原 佳昭)